

# 55 回目の 憲法記念日 今、 あなたに 問う

すべての富のうち  
6人が59%をもっていて  
みんなアメリカ合衆国の人です  
74人が39%を  
20人が、たったの2%を  
分けあっています

すべてのエネルギーのうち  
20人が80%を使い  
80人が20%を分けあっています

「世界がもし100人の村だったら」より  
インターネットメール集  
池田香代子再話／C・タグラス・ラミス対訳

「平和・人権・民主主義を考える」西濃憲法集会2002

何が「テロ」なのか？「富と貧困」の集中がもたらすもの

— 世界から最も忘れ去られた国、アフガニスタン —

5月3日  
憲法記念日

入場無料

午後1時30分～4時30分  
大垣市総合福祉会館ホールにて

- 自由法曹団アフガン問題調査団報告  
報告者 大久保賢一(埼玉弁護士会)
- 「世界がもし100人の村だったら」を  
実感する
- ファタナ・サーベさんをかこんで  
(セーブアフガンチルドレンの会代表)

「平和・人権・民主主義を考える」西濃憲法集会2002 実行委員会

連絡先／西濃法律事務所 大垣市室町2-25 TEL 0584-81-5105 e-mail: seinolaw@nifty.com

# 呼びかけ

世界がもし  
100人の  
村だったら…

「平和・人権・民主主義を考える」西濃憲法集会も今年で8回をむかえます。

東京や名古屋などの都会に出かけていなくても、「真実」を知り、それを自分自身で判断し、「平和と人権と民主主義」をまじめに考える集会がでないか、そのために小規模であっても、足元であるこの地域で集会を開くことが大切だと思い、これまで続けてきました。それでも毎年、ゴールデンウィークにもかかわらず、200～300名の方が参加されるようになってきました。

今年のテーマを考えた時、いわゆる「同時多発テロ」とこれに対するアメリカの報復攻撃、日本の協力と有事法制について取り上げないわけにはいかないと考えていました。

そんな中、インターネットメール集「世界がもし100人の村だったら」がきっかけで、私たちは、知らない間にアジアの人たちから何かを奪っているのでは？一部の富の集中が世界のあちこちで新たな貧困を生み出しているのではないかと考えてきました。

特別な活動をしているわけではない私たちですが、テレビで見る「テロ」は、本当に「テロ」なのか。アフガニスタンの悲劇は、何が引き起こしたのか。自分たちの生活が苦しいのは何が原因なのか。「事実を事実として」受け止め自分自身で考え、判断する力が市民に大切なのではと考えています。

集会では、今年1月、自由法曹団アフガン問題調査団の一員としてパキスタンを訪問された大久保賢一弁護士（埼玉弁護士会所属）がその報告をしてくださいます。表紙の少女の写真はご自身が撮影されたものです。

また、名古屋在住の英会話講師で、現在故国アフガニスタンの子どもたちのために学校建設の運動をされているファタナ・サーベさんを囲んで、荒廃したアフガニスタンの子どもたちのきびしい現実もお話いただき、ともに考える集いにしたいと考えています。

この集会は単にお話しを聞くことが目的ではありません。あなたが参加してつくりあげてください。「テロ」に関わること。あるいは、海外の貧しい国々の支援に活躍されている方、ぜひ一緒にこの集会に参加して私たちと「平和・人権・民主主義」について考えて下さい。

「平和・人権・民主主義を考える」西濃憲法集会2002実行委員会  
憲法集会掲示板 <http://8522.teacup.com/mana/bbs>

パキスタンにて 大久保賢一氏



私はテロもふくめて犯罪はおそろしい。

けれども国家の剥き出しの暴力の方が更におそろしい。アフガン難民の子どもたちには笑顔が似合っていたし、大人の男たちには威厳があった。国連職員もNGOの人たちも悩みをもちながらも誠実であった。私がパキスタンに行ってアフガン難民の子どもたちに、キャラメルを配りたいと言ったら、何人もの人たちが多額のカンパをしてくれた。

私は、こういう人たちを信ずるし、こういう人たちと共生したい。

アメリカという大樹の陰にかくれながら、人間の生命と尊厳やひたむきな努力や誠意を軽視するようなことは、きっと恥ずかしいことなのだと思う。

弁護士 大久保賢一